

頑張れ店長

午年波乱？今年の願い

今年（うまだし）。株式相場の格言では「寅千里を走る。卯跳ねる。辰巳天上、午尻下がり」といって、相場が崩れる年だとか。前回の2002年は、米国のエネルギー取引のエンロン、通信会社ワールドコムが破綻したあたりを食って、日経平均株価が9000円を割ってしまいました。何やら波乱を予感させますが、店長さんたちに今年の願いを聞きました。

8勝4敗の昨年以上に

「昨年はパチスロの健闘もあって、12か月のうち売上が前年同期を上回ったのが8か月もあって、星勲定でいうと8勝4敗。年間を通して売上も4%増と好調でした。今年は12戦全勝と行きたいところですが、導入する新台頼みの要素が大きいので、少なくとも今年並み、できればそれを上回る成績を上げるのが今年の私の願いです」
（関東・A店長）

厳しい環境の中、売上が前年を上回るのはたいしたもの。勝ち越すコツは、勝ちに行く月と、そうではない月のメリハリを付けることだそうです。

新次元の遊技機開発を

「毎年のことですが、『今年こそ爆発的な超人気機種が登場して、ファン人口も売上も倍増してほしい』と願っています。初詣でもそのように祈願しています。うちの社長の話によると、1980年のフィーバー機登場で、機械を入れさえすれば、特に何もしなくても売上は毎年倍々で増えたそうです。射幸性を上げるのではなく、新次元の遊技機で楽しさを体感させてくれるような遊技機を開発をメーカーさんに期待しています」
（中部・B店長）

遊技業界は、1960年のチューリップ機登場、1980年のフィーバー機登場で新次元を切り開いてきました。ホール業界の遊技

機メーカーに対する期待は大きいのです。

部下の昇進は店長の務め

「今年の私の目標は、入社4年目の部下をマネジャーに昇格させることです。マネジャーになると、店舗運営計画や予算実績管理、人材育成計画といった先を見通す視点が必要で、そのため、うちのマネジャーの下で特訓をさせています。優秀な部下が昇進すると別の店に異動するので、それが嫌で部下の昇進を望まない店長もいるのですが、私は部下を昇進させるのが店長の務めと思っていますので、大いに力を入れていきます。私もそのようにして育てられたのですから」
（関東・C店長）

ホール企業にとって一番の財産は人材です。店長の役割の一つは、その人材を育成し磨きをかけることです。

ECCO遊技機導入に期待

「ECCO遊技機がいろいろ取り沙汰されていますが、封入式なら

店長からの投書

2020年の

東京五輪が決まり、海外から観光客を呼び込む一環として、カジノ解禁が現実味をおびてきました。一部の大手ホール企業は参入を狙っているようですが、パチンコ業界は警戒する空気が強いです。

しかし、立地が大型リゾートホテルなどに限られ、あちこちにカジノができるわけではないし、

客層も異なるでしょうから、わが業界と競合するとは思えません。市場規模は1兆円と試算されていますが、パチンコ市場の20分の1です。むしろ、富裕層を対象にしたレートの高いカ

カジノ怖くない庶民の娯楽として差別化を図れば

ジノに対して、パチンコは庶民の娯楽というイメージで差別化を図れば、新しい客層を掘り起こすことができるのではないのでしょうか。（関東・店長）

玉運びの労力がいらず、従来型のゴトを排除できる構造ならセキユリティーが高まり、現場としては大いに歓迎です。新しくユニットを設置するには多大な投資が必要で、一気に進むとは思えませんから、CR機が登場したときのように、しばらくは既存の遊技機とECO遊技機が併存するのでしょうか。CO遊技機が併存するのでしょうか。市場に出来るかわかりませんが、会社にはECO遊技

機の導入に積極的になっていき、できれば今年中に導入できることを願っています」（中部・D店長）

心を入れ替えて嫁探し

「30歳代後半に突入する今年の個人的な目標は、ズバリ嫁取りです。これまで何人かの女性と付き合ってきましたが、嫁さん候補を紹介してほしいと声をかけているのですが、よほど遊び人と思われているのか、『紹介しても破綻するのは時間の問題』とか、『欠陥品とわかっていて紹介したくない』などと言っています。そういうわけで、今年心を入れ替えて、まずはお嫁さんを迎え入れる新居を購入して、真面目に婚活に精を出します」（近畿・E店長）

昔は、男性がある程度の年齢になると、周囲が「そろそろ身を固めたらどうか」と見合い話を持ってきてくれたものですが、時代は変わったようです。

昨年入院、今年は元気に

「昨年は胆石と交通事故による骨折で、それぞれ1週間と半月間入院しました。健康であることの有り難さを思い知った1年でした。ですから今年の願いは無病息災で

す。もともと、私が入院中は、マネジャーが頑張ってくれて、一回りも二回りも成長してくれました。たまに病気をするのもいいかもしれません」（関東F店長）

聖路加国際病院名誉院長で102歳の日野原重明さんは、小学生のときに急性腎炎で休学、医学学校在学中にも結核で休学するなど、長生きする人は意外に大病を経験した人が多いのです。病気をしたからこそ、健康な生き方を目指すのかもしれない。

息子をなんとか業界に

「今年の4月に大学の3年に進級する息子がいます。どこに就職するのか、まだ決めていないようですが、私はホール業界に就職することを密かに望んでいます。私が押しつけがましくいうと反発を買うので、家で一緒に食事をするときは、現場での出来事を面白おかしく話すようにしています」（中部・G店長）

わが子が父親と同じ職業に就くということは、父親の生き方を認めてくれたとも考えられます。息子さんがホール業界を志望してくれるといいですね。業界は何かと厳しい状況が続きますが、希望を忘れずに前に進みたいものです。